

中四国大会結果報告

広島大学体育会バレーボール部同窓生の皆様

(同窓会連絡フォームへ登録いただいた皆様及び同窓会やコートの仲間等でご連絡いただいた皆様へお送りしています。)

いつも大変お世話になっております。

広島大学体育会バレーボール部です。

5/27～29に岡山県において、中四国大会が開催されました。

広島大学の結果は、以下のとおりです。

(男子)

決勝 T1 回戦 vs 広島工業大学

○2-0 (25-11、25-17)

決勝 T2 回戦 vs 岡山大学

○3-0 (25-21、25-13、25-15)

準決勝 vs 東亜大学

●0-3 (18-25、14-25、12-25)

ベスト4

(女子)

予選1回戦 vs 美作大学

○2-0 (25-20、25-20)

決勝 T1 回戦 vs 広島文化学園大学

●0-2 (10-25、8-25)

ベスト16

(広大バレー部 Twitter)

<https://twitter.com/hiro daiVOLLEY>

怪我人の多い女子は、レフトの岩永の後衛に1年生リベロの大嶋を起用し、両センターの有馬と東が後衛も入る布陣で臨みました。大前のキャッチ本数が増え、有川にはより広い守備範囲が求められ、慣れない環境が原因でラリー負けする場面もありましたが、後衛の有馬や大嶋のレシーブから切り返して得点を重ねることができ、新1年生の長谷川がサービスエースで流れを引き寄せるなど、春リーグと比べると一歩前進したように感じました。特に大

嶋はレシーブの質が非常に高く、今は遠慮しているボールに積極的に取りに行けるようになると、怪我からの復帰が難しい森次の穴も埋められるでしょう。たくさん経験を積んで、時間はかかっても一つ一つ出来ることを増やして欲しいと思います。

他大学の試合に目を向けると、四国2部の徳島大学が万全の川崎医療福祉大学相手にストレートで勝利した試合が印象的でした。徳島大学はリベロがおらず、うち3人の身長が150cm台と決して恵まれた状況ではないものの、レシーブは重心が低く下で我慢すること、スパイクは助走で力強く踏み込みボールに体重を乗せること、サーブは試合展開を見て8秒間の使い方を変えること、どのボールを誰が取るか役割がはっきりしていて誰一人全く無駄な動きがないこと、ミスがほとんどなくあってもすぐに次の準備ができること、これらバレーボールの基本を6人全員が出来ていました。もし広大が対戦していれば、自分たちのリズムでバレーが出来ず、イライラして惨敗する姿が目に見えます。視野を広く持ち、考え方を変えてそれを行動に移せるかどうか、それが全員に求められています。

一方、春季リーグ戦3位となった男子は第4シードからスタートし、トーナメント2試合をきっちりと勝利して14年ぶりのベスト4となりました。今年のチームの良いところとして、どんな相手でも集中力を高く持って、考えながらバレーボールが出来るところがあります。岡大戦も決して簡単な試合ではありませんでしたが、河津や和田のレシーブ、高橋のCクイック、村上の軟打、稲葉のバックアタックなど、高いブロック力とリベロの樋口が作り出す自分たちの時間を効果的に使えていたと感じました。準決勝は全員初めての舞台でもあり、サーブで攻められず苦しい展開となりましたが、特にレシーブでは惜しいと感じる場面が多々ありました。思った以上に手元までボールが来ず、力が入ったままの体をコントロールしきれませんでした。それだけレシーブに対する準備と反応が早くなった証だと思います。もう少し力みがなくなると、ボールコントロールのゆとりが生まれ、体の使い方にも幅が出ると思いますので、チーム全員で練習に取り組んで欲しいと思います。

今大会もたくさんのご声援、誠にありがとうございました。

今後は、女子が6/10に春リーグ入替戦、翌日6/11に国体広島県予選に出場を予定しています。

引き続きよろしく願いいたします。